

■フランス：国際エネルギー機関、世界のCO₂削減には原子力が必須と提言

国際エネルギー機関（IEA）は2019年7月11日、最近発表した原子力と水素に関する報告書（“Nuclear power in a clean energy system”と“The Future of Hydrogen”）に関連した会議をパリで開催し、大江博 OECD 日本政府代表部大使をはじめレヴィ EDF 会長他が出席した。IEA のファティ・ビロル事務局長は、世界のCO₂排出量を削減するためには、「唯一の解決策はない」と発言し、原子力を含むすべての技術の利用を呼び掛けた。「現在の政策が見直されなかった場合、原子力設備の約3分の2が2040年までに失われてしまう」、「原子力発電所の閉鎖を止めることが、クリーン電力の将来のためには、必須である」と述べ、原子力発電所の運転延長が「コスト面で非常に競争的である」と強調した。また、EDF のレヴィ会長は「工業国が既存の原子力発電所の運転延長や設備の新設に投資しないと、気候変動目標の達成が危うくなる」と主張した。